

災害支援ナースとしての活動

福井県済生会病院 福田崇裕

第3班として1月15日から1月18日まで2名（杉田玄白記念公立小浜病院1名、福井県済生会病院1名）が石川県立輪島高校にて活動してきました。輪島高校は避難所と福祉避難所の2つの役割を担っている場所となっており、輪島高校への派遣は福井県含め他の都道府県看護協会の方合わせ8名での活動となりました。

輪島高校では災害支援ナースの他にNPO法人ジャパンハートの方々との活動となり、活動中はジャパンハートの方の傘下に入り活動するとのことでした。

15日輪島高校に到着しジャパンハートの方からオリエンテーションをしていただき、その後先遣隊の方からの引継ぎを行いその後活動となりました。輪島高校では体育館・剣道場・柔道場エリア、2、3階教室エリア、コロナ・インフルエンザ・感染性腸炎の感染症部屋エリアの3ブロックに分け福井県は感染症部屋ブロックの担当をしました。

活動内容としては担当ブロックの避難者の健康チェック、環境整備、災害用トイレなどの掃除、食事の配膳、DMATの方々の回診介助・情報提供・緊急搬送などの相談などを行いました。活動中は夜間業務もあり、不眠続きで精神的ストレスからの嘔吐症状が出た方の対応や傾聴も行いました。被災者の方々の思いの傾聴は短い期間での関係性構築の難しさを実感しました。

活動3日目には統括DMAT看護師の方から看護師体系の見直しがありジャパンハートの傘下ではなく並行し災害支援ナースも活動することとなりました。活動中8名の災害支援ナースで協議を行い福井県から活動期間中のリーダーを選出しました。活動場所は福祉避難所となっていたので他避難所で発生した感染症の被災者の中で介助が必要な方の受け入れ調整や段ボールベッドのベッドコントロールなども行いました。

4日目は体育館で嘔吐・下痢症状の方が増加していたのでDMAT隊と協議しながらのゾーニングなども行いました。その後、後続隊への連絡調整、オリエンテーション、引継ぎ作業を行い活動終了となりました。

